

ビリー・ワイルダー

Billy Wilder

生年月日 1906/06/22

出身地 オーストリア／ウィーン

没年 2002/03/27

関連人物 W・リー・ワイルダー（兄）

【バイオグラフィ】

■本名はSamuel Wilder。新聞記者、脚本家として活躍するが、ユダヤ人であったためナチの台頭とともにフランスに移住。その後メキシコを経てアメリカに移り、やがてチャールズ・ブラケットと出会い二人は38年の「青髭八人目の妻」で初めて共同で脚本を執筆する。そしてこの黄金コンビは50年の「サンセット大通り」でコンビ解消するまで続き、数々の名作を生み出すことになる。また、「青髭八人目の妻」「ニノチカ」では監督のエルンスト・ルビッチから多大な影響を受け、以後、ルビッチこそがワイルダーの映画製作における“基準”となる（ワイルダーのオフィスには常に『ルビッチならどうする？』と書かれた額が飾られていたことはあまりにも有名）。ワイルダー自身の監督第4作目にあたる「失われた週末」でアカデミー監督賞と脚色賞を受賞、ハリウッドのトップ監督の仲間入りを果たす。その後、「お熱いのがお好き」「アパートの鍵貸します」に代表されるシチュエーション・コメディの傑作を次々と生み出す一方、「サンセット大通り」「情婦」といったサスペンスにも類い希な才能を発揮、あくまでも“脚本ありき”の職人気質の監督として映画史に燦然と輝く偉大な映画作家となった。アカデミー賞に20回ノミネートされ、うち7回受賞（製作も兼ねていた「アパートの鍵貸します」の作品賞も含む）。87年にはアーヴィング・タールバーグ記念賞も受賞した。49年に女優と再婚。2000年には“ワイルダーならどうする？”というキャメロン・クロウとの長時間インタビュー集が発表され話題となる。また2001年、同対談集の日本での発売と前後して、彼の大ファンを自認する三谷幸喜氏との対談が実現、その模様がテレビで放映され相変わらずのお茶目ぶりを披露、日本のファンを喜ばせてくれた。しかしここ数年は体調がおもわしくなく、翌2002年3月27日にビバリーヒルズの自宅で静かに息を引き取った。享年95歳。

【フィルモグラフィ】

思い出のオードリー・ヘプバーン（1993）	出演
新・おかしな二人／バディ・バディ（1981）	監督, 脚本
悲愁（1979）	監督, 製作, 脚本
フロント・ページ（1974）	監督, 脚本
お熱い夜をあなたに（1972）	監督, 製作, 脚本
シャーロック・ホームズの冒険（1970）	製作, 監督, 脚本
恋人よ帰れ！わが胸に（1966）	監督, 製作, 脚本
ねえ！キスしてよ（1964）	監督, 製作, 脚本
あなただけ今晚は（1963）	監督, 製作, 脚本
ワン、ツー、スリー／ラブハント作戦（1961）	監督, 製作, 脚本
アパートの鍵貸します（1960）	監督, 製作, 脚本
お熱いのがお好き（1959）	監督, 製作, 脚本
情婦（1957）	監督, 脚本
翼よ！あれが巴里の灯だ（1957）	脚本, 監督, 製作
昼下りの情事（1957）	監督, 製作, 脚本
七年目の浮気（1955）	監督, 製作, 脚本

麗しのサブリーナ (1954)	監督, 製作, 脚本
第十七捕虜収容所 (1953)	監督, 製作, 脚本
地獄の英雄 (1951)	監督, 製作, 脚本
サンセット大通り (1950)	監督, 脚本
皇帝円舞曲 (1948)	監督, 脚本
ヒット・パレード (1948)	脚本
異国の出来事 (1948)	監督
失われた週末 (1945)	監督, 脚本
深夜の告白 (1944)	監督, 脚本
熱砂の秘密 (1943)	監督, 脚本
少佐と少女 (1942)	監督, 脚本
教授と美女 (1941)	原案, 脚本
囁きの木陰 (1940)	脚本
ニノチカ (1939)	脚本
ミッドナイト (1939)	脚本
青髭八人目の妻 (1938)	脚本
空飛ぶ音楽 (1934)	脚本
ろくでなし (1934)	監督
女王様御命令 (1931)	脚本
少年探偵団 (1931)	脚本